

あじさいだより

2014年 2月

<http://www.pharma-care.co.jp>

発行責任 あじさい薬局
あじさいだより編集委員会

お薬手帳がみんなを結ぶ！

～ 進化したお薬手帳の有効利用について～



[本編～お薬手帳の活用法～]

< 目的 >

- 1) 薬の記録
- 2) 副作用・アレルギーの記録
- 3) 体調の変化や残薬、質問したいこと等のメモ



< 記載しておいたほうがいいこと >

1) **病名** (特に糖尿病・喘息・心疾患) これらの病気はそれぞれ応急処置が異なります。手遅れにならないように、発作時・倒れた時の対応も含めまわりの人にも伝えておきましょう。

- 2) **血液型**
- 3) **緊急時連絡先**

< お薬手帳の使い方 >

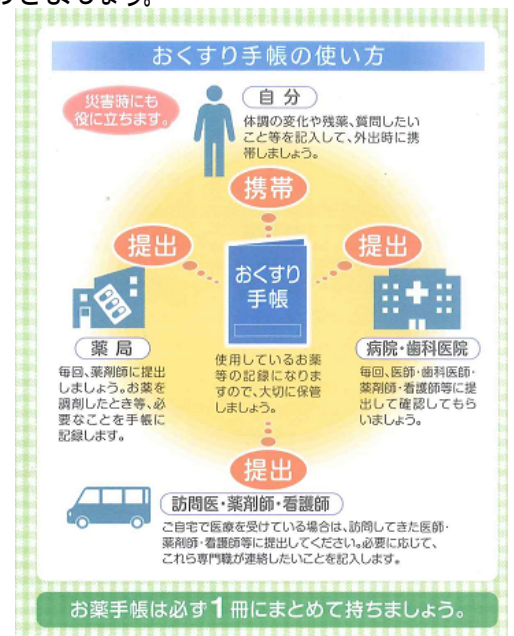
病院や薬局では受付時に提出してください。

注意 1) 手帳は日頃持ち歩くようにしましょう。

2) お薬手帳は必ず1冊にまとめましょう。

3) 確認してもらう習慣をつけましょう。

4) 災害時には保険証と一緒に携帯しましょう。



[災害時編]

東日本大震災のときにお薬手帳が大活躍しました！

災害時には病名や普段の薬がわからないことが現場の医療人を悩ませました。災害時には薬の流通もストップしてしまうため、無傷で避難できた人も血圧や糖尿病など普段飲んでいる薬が手に入らなくて困っていました。機能している病院はけが人の対応で忙しく、また交通手段もなくなりいつもの病院にもいけない状況でした。

<お薬手帳のはたした役割>

上記のような病院にいけない状況でもお薬手帳の記録をもとに薬局で薬をもらえました。(特例)



お薬手帳に病名が書いてあったおかげで避難所での症状の診断を考えるのに多いに役立ちました。検査もない・カルテもない状況で、お薬手帳の記録が多くの医療者に情報を与えることができました。

[地域連携編]

連携することによって

地域全体でみなさんの人生を支えることができます！



どの職種の誰が関わっているのかひと目でわかる「連携手帳」への進化
例・使い方: 下記の用紙を二つ折りにしてお薬手帳にテープで貼るだけ
この用紙は当薬局にてお渡しできます。(十勝連携の会のホームページにも掲載されています)

連携シート (おくすり手帳版)

お名前: あじさい太郎 (記入: H26年2月1日)	
要介護: 4 (H25年4月1日~H26年3月31日)	
ケアマネジャー 田中△子 指定居宅介護事業所〇〇〇(Tel: 00-0000)	
利用している介護・福祉サービス	曜日・頻度
〇〇訪問介護ステーション	火
デイケア〇〇	月・水・金
ヘルパーステーション〇〇〇	火・木・土
配食サービス(夕食)	月~土
ショートステイ〇〇苑	月5日程度
福祉用具(ベッド・車いす貸与)	
ケアマネから主治医・薬局にご連絡 ・今月から配食サービスが始まりました。 ・お薬飲みこみにくいのでゼリーを使っています	

病院・診療所(薬局)からのご連絡
医の薬は飲まないことが多いようです。このまま1日2回に減量できないでしょうか。 (2013年11月10日・医師(薬剤師)看護師:山本)
錠剤が飲み込みにくようですが、貼り薬や粉薬に変更できないでしょうか。 (2013年12月12日・医師(薬剤師)看護師:阿部)
今回の薬の副作用によってむくみや下痢がでてる場合があります (2014年1月14日・医師(薬剤師)看護師:川島)
飲み忘れがたまにあるようです。お薬カレンダーを使用してみてもいいでしょうか。 2014年 2月 9日・医師(薬剤師)看護師:山本
備考: